



かいさい
10/15(土)開催！

こと
「三つの琴でめぐる世界
ばとうきん
～アルパ・馬頭琴・ハープの調べ～」
しゅつえんしゃ
出演者インタビュー

10/15(土)に伊丹アイフォニックホールで開催される「三つの琴でめぐる世界」公演の、3 人の出演者にインタビューをしました！今回の公演では、3種類の「琴」によるコラボレーションの演奏をお聴きいただけます。どんな楽器が登場するの？どんなところに注目して聴くのがおすすめ？そんな疑問に答えていただきました♪

◆インタビュー内容◆

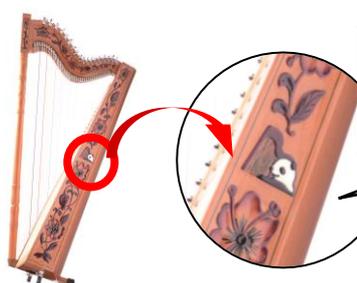
- ① 演奏する楽器の特徴を教えてください。
- ② 演奏の時、どんなところに注目して聴いてほしいですか？
- ③ 最後に、メッセージをお願いします。



伊丹アイフォニックホールの
えーびーちゃん

いけやま ゆか
池山由香 (アルパ&メゾソ프라ノ)

- ① 「アルパ」はスペイン語で「ハープ」の意味。16～18世紀頃にスペイン人がアメリカ大陸にハープを持ちこみ、その国ごとに発展したのがアルパです。私が演奏しているのは南米・パラグアイのアルパ。高さは150cm弱、重さは約7kgあります。他にペルー、ベネズエラ、メキシコなどで発展していて、国ごとに形や音色が違います。37本前後の弦を爪ではじいて奏するので、芯のはっきりした音色が特徴です。
- ② まずは、癒し系のイメージがあるハープの一種であるにもかかわらず、アルパは元気な音色とリズムを奏でる楽しい楽器であることにご注目。そして、楽器や音楽が生まれた国の情景を思い浮かべてお聴きください。民族衣装もお楽しみに！

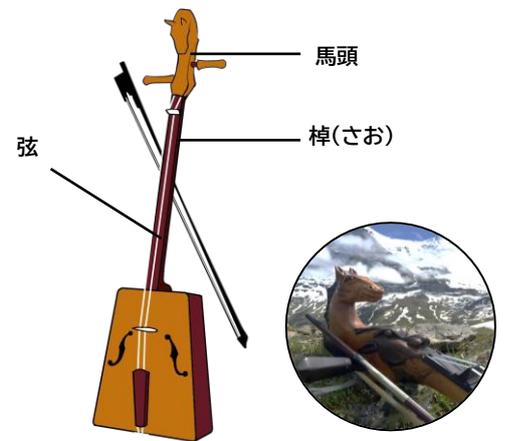


今回のコンサートで演奏するアルパ。池山さんが好きなバンドが彫られています♪

- ③ 単体でも十分に珍しい楽器を、一度に三種類お聴きいただける機会はないと思います。聴きなじみのあるメロディから、その楽器ならではの音楽まで、存分にお楽しみいただければ嬉しいです。伊丹のみなさんにお会いできるのを楽しみにしています！

美炎 (馬頭琴)

- ① 形は「馬の頭の琴」という通り、馬の頭部の彫刻が楽器の先端についています。そこから棹があり、胴体は台形の形をしていて、弦は2本しかありませんが、束になっているので太いです。昔は馬の頭ではなく、部族の王様の顔が彫られていたようです。この500年ほどで馬の頭の彫刻になったと言われています。モンゴルは馬を大事にする国。そこから生まれた楽器です。
- ② 弦が太く、束になっており、深い音がします。指のおさえ方が変わっていて、爪のつけ根の部分で弦の横から押さえています。おさえ方によっては透明感のある高音も出せるので、音色の幅がひろいと思います。そのあたり、曲によって変わる印象を感じてみてください。
- ③ はじいて音を出すハープやアルパと、弓で弦をこすって音を出す馬頭琴との音のコラボレーション、アンサンブルの楽しさを感じていただけたらと思います。



中村愛 (ハープ)

- ① 私が演奏するグランドハープは、オーケストラなどで使用されるクラシック音楽用のハープです。フランス王妃マリー・アントワネットが愛好していたこともあり、フランスを中心に発展していきました。指の腹を使って弦をはじくので、少しぼんやりとした柔らかい音がします。柱に彫刻、共鳴板に唐草模様が描かれているなど、目で見ても楽しめます。



② 今回はハープのために書かれたものではない曲を演奏するのですが、ハープで演奏すると世界観がとても変わるので、ぜひ色々な想像をふくらませながら聴いてみてください！

③ 今回のコンサートでは、それぞれの楽器の良さが最大限に出る選曲をしています！この3つの楽器がそろって演奏することはまずないのでこの機会にぜひお楽しみいただければ幸いです！



マリー・アントワネット

